

第 2 期濤沸湖環境保全活用ビジョン (資料編)

令和 7 年 3 月
網走市 ー 小清水町
濤沸湖水鳥・湿地センター

～資料編の読み方～

資料編では、第2期瀬沸湖環境保全活用ビジョン（本編）に掲載していない資料を以下のとおりまとめた。

資料編では、各資料の冒頭に本編に対応するページ番号と、本編のタイトルを記載した。本編と資料編との対応は下表に一覧として示す。

本編ページ 番号	本編タイトル	資料編ページ 番号
3	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 1 自然の特徴 (1) 流域の諸元と地形・地質	1
6	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 1 自然の特徴 (2) 水象	2
19	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 2 生きものの特徴 (1) 哺乳類	4
19	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 2 生きものの特徴 (2) 鳥類	5
20	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 2 生きものの特徴 (3) 昆虫類	7
21	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 2 生きものの特徴 (4) 魚類と底生動物	10
22	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 2 生きものの特徴 (5) 植物	12
24	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 2 生きものの特徴 (6) 希少種	15
26	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 2 生きものの特徴 (7) 外来種	18
24、26	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 2 生きものの特徴 ※希少種・外来種の選定基準	20
35	1章 瀬沸湖の特徴と課題 I 瀬沸湖の特徴 3 人や社会の特徴 (7) 環境関連	21

本編ページ番号：3

タイトル：1 章 濤沸湖の特徴と課題、Ⅰ 濤沸湖の特徴、1 自然の特徴

(1) 流域の諸元と地形・地質

地形・地質

周辺地質

濤沸湖周辺の地質には堆積物による沖積地（完新統）が多く見られるが、後背地では火砕流堆積物からなる丘陵性山地（更新統）が広がる。ともに新生代第四紀で、1 万年くらい前までの新しい地質が完新統、180 万年前までのやや古い地質が更新統である。

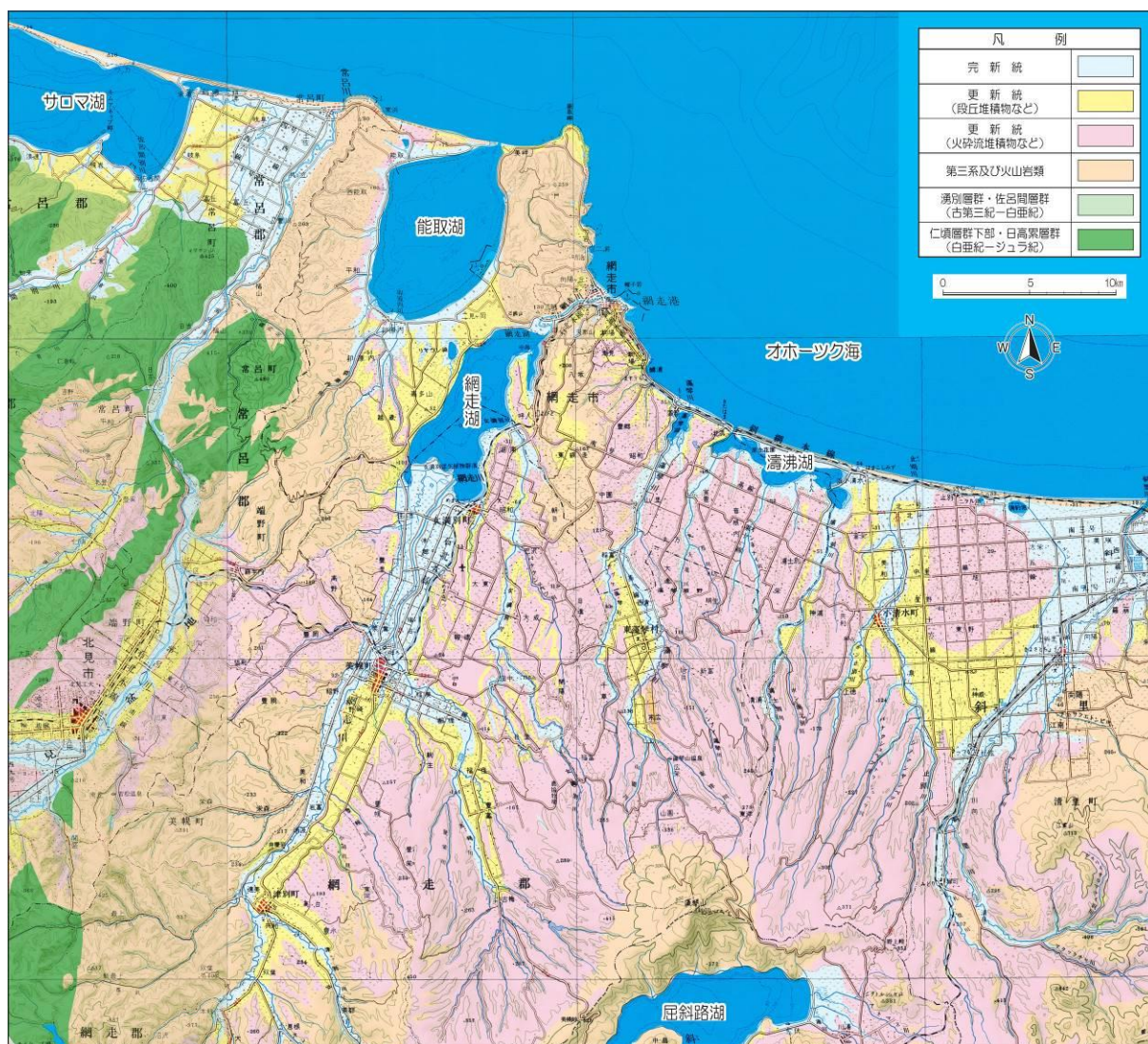


図 資-1 周辺地における地質概略図

出展)財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（pp.1-15）

本編ページ番号：6

タイトル：1 章 濤沸湖の特徴と課題、 I 濤沸湖の特徴、 1 自然の特徴
(2) 水象

① 流入河川

表 資-1 流入河川および湖口部の水質経年変化（1996 年～2009 年）

丸万川	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
pH	8.5	8.7	8.3	7.8	7.2	7.6	7.6	7.5	7.5	7.5	7.3	7.6	7.6	7.4
DO	10.1	10.4	11.0	10.6	10.9	10.7	10.4	11.5	10.6	10.0	10.9	10.9	11.0	10.2
BOD	0.9	0.6	1.0	0.4	1.1	0.7	1.5	1.0	0.9	1.6	0.7	0.6	0.6	0.8
COD	7.0	6.1	6.5	6.1	5.2	—	5.9	4.9	6.1	6.2	5.5	5.9	6.3	6.6
SS	2	2	3	3	2	5	6	3	6	6	3	4	5	4
大腸菌群数	27	77	58	28	12	970	510	780	130	78	1300	1100	12000	700
T-N	0.76	0.86	1.00	1.10	1.30	1.30	1.40	1.10	1.10	1.10	1.30	1.20	1.30	1.4
T-P	0.052	0.053	0.046	0.052	0.046	0.052	0.070	0.044	0.054	0.057	0.054	0.050	0.058	0.054
オンネナイ川	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
pH	8.7	8.6	8.4	7.8	7.1	7.5	7.4	7.4	7.3	7.4	7.3	7.5	7.5	7.3
DO	10.6	9.3	10.4	11.3	10.4	9.9	10.2	11.0	9.8	9.5	10.3	10.1	10.2	10
BOD	0.8	0.7	0.9	1.1	1.1	0.9	1.5	0.9	0.8	1.0	0.9	0.5	0.8	0.8
COD	8.3	9.1	7.9	8.3	9.7	—	7.5	6.7	7.6	7.6	7.5	7.0	9.3	8.2
SS	3	8	4	2	3	6	8	5	5	7	5	4	9.5	7
大腸菌群数	90	95	44	13	71	420	230	250	99	190	890	1800	18000	750
T-N	0.50	0.70	0.87	0.81	1.00	0.88	1.10	0.75	0.80	0.71	0.84	0.81	0.88	0.96
T-P	0.055	0.069	0.054	0.045	0.055	0.056	0.074	0.044	0.057	0.061	0.060	0.053	0.064	0.056
浦士別川	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
pH	9.1	9.5	8.7	8.6	7.3	7.7	7.6	7.5	7.5	7.6	7.4	7.6	7.6	7.4
DO	11.4	10.1	10.9	8.6	10.5	10.8	11.0	11.7	10.5	10.1	10.9	10.7	10.8	10.9
BOD	0.6	0.6	0.9	0.2	0.9	1.2	1.2	0.8	0.9	1.1	0.7	0.6	0.7	1
COD	4.8	5.1	5.5	4.6	4.6	—	4.8	4.0	4.8	4.6	4.4	4.7	5.6	5.7
SS	2	4	4	2	3	5	5	5	7	6	5	9	7	8
大腸菌群数	26	50	100	190	70	980	1000	480	850	1000	990	3800	27000	2300
T-N	0.51	0.62	0.85	0.81	1.00	0.80	0.82	0.68	0.66	0.62	0.72	0.74	0.74	0.98
T-P	0.045	0.054	0.045	0.047	0.050	0.057	0.064	0.045	0.053	0.055	0.055	0.052	0.060	0.057
湖口部	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
pH	8.2	8.2	7.7	8.0	8.0	8.1	8.3	7.5	7.6	8.0	7.8	8.0	8.1	8
DO	10.4	8.3	10.1	8.5	9.7	9.4	9.8	9.7	8.9	8.2	9.2	9.1	8.1	8.5
BOD	0.9	1.4	3.2	1.6	3.8	1.2	2.4	2.5	1.4	1.5	1.9	1.6	1.0	2.9
COD	3.7	4.3	4.5	4.4	6.7	—	5.6	4.4	3.9	4.3	5.5	5.5	4.3	5
SS	9	10	12	4	12	11	7	7	34	9	12	18	11	12
大腸菌群数	2	8	400	13	17	150	1.3	3	3.9	2.2	59	210	250	150
T-N	0.61	1.10	1.00	0.80	0.98	0.21	0.30	0.75	0.24	0.35	0.59	0.49	0.50	0.58
T-P	0.056	0.051	0.053	0.041	0.047	0.046	0.042	0.044	0.057	0.052	0.054	0.059	0.046	0.053

出展)

1) 網走市市民部生活環境課（2006）網走市環境白書第2編調査・測定平成18年度

2) 網走市市民部生活環境課（2011）網走市環境白書第2編調査・測定平成22年度

※ pH、大腸菌群数（MPN/100ml）を除き、単位は mg/l である

表 資-2 流入河川および湖口部の水質経年変化（2010 年～2022 年）

丸万川	2010	2011	2013	2015	2017	2019	2022
pH	7.4～7.4	7.3～7.7	7.4～7.5	7.4～7.8	7.3～7.5	7.3～7.4	7.1～7.4
DO	10.4	10.6	10.6	10.8	10.5	10.5	10.3
BOD	0.6	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6
COD	6.7	7.2	6.6	5.9	5.9	5.5	6.4
SS	6	8	7	9	6	6	6
大腸菌群数 ^(注1)	230	1800	2200	210	140	2200	-
大腸菌数 ^(注1)	-	-	-	-	-	-	48
T-N	1.5	1.6	1.9	2.1	2.2	2.3	2.0
T-P	0.053	0.067	0.057	0.065	0.055	0.051	0.065
オンネナイ川	2010	2011	2013	2015	2017	2019	2022
pH	7.2～7.4	7.2～7.5	7.3～7.6	7.3～7.5	7.3～7.4	7.2～7.4	7.1～7.4
DO	9.7	10.0	10.2	10.4	10.1	10.2	10.0
BOD	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
COD	8.3	8.6	8.2	6.9	6.8	6.3	7.6
SS	6	9	9	9	6	6	7
大腸菌群数 ^(注1)	560	1300	530	120	540	210	-
大腸菌数 ^(注1)	-	-	-	-	-	-	23
T-N	0.95	1.00	1.3	1.30	1.40	1.50	1.3
T-P	0.048	0.062	0.054	0.050	0.049	0.047	0.056
浦士別川	2010	2011	2013	2015	2017	2019	2022
pH	7.4～7.6	7.4～7.6	7.5～7.7	7.4～7.6	7.4～7.5	7.4～7.6	7.3～7.5
DO	10.7	10.7	10.6	10.7	10.7	10.5	10.6
BOD	0.5	0.7	0.6	<0.5	0.5	0.5	0.5
COD	5.2	5.2	5.2	4.5	4.9	4.4	4.6
SS	6	7	7	6	6	6	5
大腸菌群数 ^(注1)	670	1900	220	340	1900	790	-
大腸菌数 ^(注1)	-	-	-	-	-	-	68
T-N	1.00	1.00	1.30	1.10	1.30	1.20	1.1
T-P	0.049	0.058	0.055	0.046	0.050	0.054	0.057
湖口部	2010	2011	2013	2015	2017	2019	2022
pH	7.7～8.1	8.0～8.1	8.0～8.4	7.9～8.6	7.8～8.1	7.8～8.0	7.8～8.0
DO	9.2	8.8	9.1	9.8	9.1	8.9	8.3
BOD	1.1	0.9	1.2	1.9	1.4	1.0	0.8
COD	4.8	4.1	5.3	5.1	5.8	3.9	3.6
SS	5	6	9	13	9	6	4
大腸菌群数 ^(注1)	71	34	30	10	45	48	-
大腸菌数 ^(注1)	-	-	-	-	-	-	43
T-N	0.65	0.39	0.62	0.71	0.71	0.36	0.37
T-P	0.045	0.045	0.052	0.047	0.047	0.037	0.038

出典) 網走市（2020、2022）環境白書第2編 調査・測定（第2編）（pp.41-44）

（注1）水質汚濁防止法の改正（2022年）に伴い、「大腸菌群数（単位：（MPN/100mL）」から「大腸菌数（単位：CFU/100mL）」の計測に変更されたため、本表についても2022年のみ大腸菌数を掲載

※ pH、大腸菌群数（MPN/100ml）・大腸菌数（単位：CFU/100mL）を除き、単位はmg/lである

※ 2012年度より2カ年で9箇所実施に変更

（2012年→網走湖関連2河川・藻琴湖関連3河川 2013年→濤沸湖関連4河川）

※ pHについては2010年から最小値～最大値を記載、その他の項目は平均値

本編ページ番号：19-26

タイトル：1 章 濤沸湖の特徴と課題、 I 濤沸湖の特徴、 2 生きものの特徴

(1) 哺乳類、(2) 鳥類、(3) 昆虫類

(4) 魚類と底生動物、(5) 植物、(6) 希少種、(7) 外来種

希少種と外来種の選定基準

(1) 哺乳類

生物目録 資-3 濤沸湖周辺で確認されている哺乳類

科	種	科	種
トガリネズミ	トガリネズミ科	イタチ	イイズナ ミンク
ヒナコウモリ	モモジロコウモリ コテングコウモリ	アシカ	トド
ウサギ	ユキウサギ	アザラシ	ゴマフアザラシ
リス	キタリス シマリス（エゾシマリス） タイリクモモンガ	シカ	ニホンジカ
ネズミ	タイリクヤチネズミ （エゾヤチネズミ）	マイルカ	カマイルカ
クマ	ヒグマ		
イヌ	タヌキ キツネ		

出典) 網走市（2009～2021）濤沸湖水鳥・湿地センター自然情報 他

※種名および配列などは、国土交通省（2022）「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度生物リスト」に従った

(2) 鳥類

生物目録 資-4-1 濤沸湖周辺で確認されている鳥類 (1)

科	種	科	種
キジ	エゾライチョウ ウスラ キジ	ツル	マナヅル タンチョウ クロツル ナベツル
カモ	サカツラガン ヒシクイ マガン カリガネ ハクガン シジュウカラガン コクガン コブハクチョウ コハクチョウ オオハクチョウ オシドリ オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ トモエガモ・ヒドリガモ(交雑) アメリカヒドリ ヒドリガモ・アメリカヒドリ(交雑) マガモ カルガモ マガモ・カルガモ(交雑) ハシビロガモ オナガガモ シマアジ トモエガモ コガモ コガモの亜種間(交雑) オオホシハジロ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ シノリガモ ピロードキンクロ クロガモ コオリガモ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ ウミアイサ	クイナ	クイナ ヒクイナ バン オオバン
		カッコウ	ツツドリ カッコウ
		アマツバメ	ハリオアマツバメ アマツバメ
		チドリ	タゲリ ケリ ムナグロ ダイゼン ハジロコチドリ イカルチドリ コチドリ シロチドリ メダイチドリ オオメダイチドリ
		ミヤコドリ	ミヤコドリ
		セイタカシギ	セイタカシギ ソリハシセイタカシギ
		シギ	ヤマシギ アオシギ オオシギ タシギ オオハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ コシヤクシギ チュウシヤクシギ ダイシヤクシギ ホウロクシギ ツルシギ アカアシシギ コアオアシシギ アオアシシギ カラフトアオアシシギ クサシギ タカフシギ キアシシギ ソリハシシギ イソシギ キョウジョシギ オバシギ コオバシギ ミユビシギ トウネン ヨーロッパトウネン オジロトウネン ヒバリシギ ヒメウスラシギ アメリカウスラシギ ウスラシギ サルハマシギ チシマシギ ハマシギ ヘラシギ キリアイ エリマキシギ アカエリヒレアシシギ ハイイロヒレアシシギ
カイツブリ	カイツブリ アカエリカイツブリ カンムリカイツブリ ミミカイツブリ ハジロカイツブリ	ツバメチドリ	ツバメチドリ
ハト	カワラバト(ドバト) キジバト アオバト		
アビ	アビ オオハム シロエリオオハム		
ウミツバメ	ハイイロウミツバメ		
コウノトリ	コウノトリ		
ウ	ヒメウ カワウ ウミウ		
サギ	サンカノゴイ ヨシゴイ アカガシラサギ アマサギ アオサギ ダイサギ チュウサギ コサギ		
トキ	ヘラサギ クロツラヘラサギ		

生物目録 資-4-2 濤沸湖周辺で確認されている鳥類 (2)

科	種	科	種
カモメ	ミツユビカモメ ユリカモメ ズグロカモメ ウミネコ カモメ ワシカモメ シロカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ コアジサシ アジサシ クロハラアジサシ クロクロハラアジサシ	ムシクイ	オオムシクイ メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ
		メジロ	メジロ
		センニュウ	マキノセンニュウ シマセンニュウ エゾセンニュウ
		ヨシキリ	オオヨシキリ コヨシキリ
		レンジャク	キレンジャク ヒレンジャク
		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ
トウソクカモメ	トウソクカモメ クロトウソクカモメ	キバシリ	キバシリ
ウミスズメ	ウミスズメ	ミソサザイ	ミソサザイ
ミサゴ	ミサゴ	ムクドリ	ムクドリ コムクドリ ホシムクドリ
タカ	トビ オジロワシ オオワシ チュウヒ ハイイロチュウヒ ハイタカ オオタカ ノスリ ケアシノスリ クマタカ	カワガラス	カワガラス
		ヒタキ	マミジロ トラツグミ クロツグミ マミチャジナイ シロハラ アカハラ ツグミ ノハラツグミ ノゴマ コルリ ルリヒタキ ジョウビタキ ノビタキ ハシグロヒタキ エゾビタキ コサメビタキ キビタキ オオルリ
フクロウ	シロフクロウ フクロウ トラフズク コミミズク	スズメ	ニュウナイスズメ スズメ
ヤツガシラ	ヤツガシラ	セキレイ	ツメナガセキレイ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ピンズイ タヒバリ
カワセミ	カワセミ ヤマセミ		
キツツキ	アリスイ コゲラ コアカゲラ オオアカゲラ アカゲラ ヤマゲラ	アトリ	アトリ カワラヒワ マヒワ ベニヒワ ハギマシコ ベニマシコ アカマシコ オオマシコ ギンザンマシコ イスカ ウソ シメ イカル
ハヤブサ	チョウゲンボウ コチョウゲンボウ チゴハヤブサ シロハヤブサ ハヤブサ	ツメナガホオジロ	ツメナガホオジロ ユキホオジロ
モズ	モズ アカモズ オオモズ	ホオジロ	シラガホオジロ ホオジロ ホオアカ カシラダカ ミヤマホオジロ シマアオジ アオジ オオジュリン
カラス	カケス ホシガラス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス ワタリガラス		
キクイタダキ	キクイタダキ		
シジュウカラ	ハシブトガラ コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ		
ヒバリ	ヒバリ		
ツバメ	ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ		
ヒヨドリ	ヒヨドリ		
ウグイス	ウグイス ヤブサメ		
エナガ	エナガ		

出典)

1) 網走市 (2009~2021) 濤沸湖水鳥・湿地センター自然情報 他

2) 斎藤喜一郎 (1978) 濤沸湖周辺 (除く海域) で観察された鳥類 探鳥ガイド、網走の野鳥 277 他

※種名および配列などは、国土交通省 (2022) 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和 4 年度生物リスト」に従った

(3) 昆虫類

生物目録 資-5-1 瀧沸湖周辺で確認されている昆虫類 (1)

科	種	科	種
アオイトトンボ	アオイトトンボ オツネイトンボ	ツツミノガ	アカザハナツツミノガ ネプトキンバネツツミノガ
イトトンボ	キタイトトンボ エゾイトトンボ ルリイトトンボ アカメイトトンボ マンシュウイトトンボ クロイトトンボ セスジイトトンボ	カザリバガ	ドルリーカザリバ
ヤンマ	オオルリボシヤンマ ルリボシヤンマ ギンヤンマ	キバガ	シロテンクロキバガ ミツボシキバガ ヘルマンアカザキバガ ミニフサキバガ ミツコフキバガ ミソソバキバガ イグサキバガ ウスクロテンシロキバガ ヤチヤナギキバガ ウスクロキバガ ホシウスジロキバガ
オニヤンマ	オニヤンマ	マルハキバガ	ウスマダラヒラタマルハキバガ タカムクマルハキバガ クロミヤクマルハキバガ
エソトンボ	モリトンボ タカネトンボ エソトンボ	スガ	ウスグロヒメスガ リンゴスガ
トンボ	ヨツボシトンボ シオカラトンボ シオヤトンボ ウスバキトンボ ムツアカネ ナツアカネ マユタテアカネ エゾアカネ アキアカネ ノシメトンボ ミヤマアカネ Sympetrum属	メムシガ	シンチュウムモンメムシガ トドマツメムシガ
クギヌキハサミムシ	コブハサミムシ クギヌキハサミムシ	ハマキガ	ミヤマミダレモンハマキ トラフハマキ チャモンカギバヒメハマキ カゲハマキ リンゴモンハマキ サカモンヒメハマキ イグサヒメハマキ ウスキカクモンハマキ コスジオビハマキ ウスキホソハマキ ネグロホソハマキ クロサンカクモンヒメハマキ シロツメモンヒメハマキ キオビヘリホシヒメハマキ ギンムシハマキ ウンモンクロマダラヒメハマキ ハッカノネムシガ クロマダラシンムシガ ミツシロモンヒメハマキ トウヒシロスジヒメハマキ カギモンヒメハマキ ムモンハンノメムシガ カンバウスモンヒメハマキ セウスモンヒメハマキ フタシロモンヒメハマキ ボカシハマキ ウスツヤハイイロヒメハマキ ムモンハイイロヒメハマキ ウスモンハイイロヒメハマキ フタモンコハマキ ツヤスジウンモンヒメハマキ クローバヒメハマキ イラクサヒメハマキ コナカオビホソハマキ ヤナギサザナミヒメハマキ カラマツヒメハマキ シロスジヒロバヒメハマキ
カマドウマ	マダラカマドウマ	イラガ	マダライラガ
ツユムシ	エソツユムシ ツユムシ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ コキマダラセセリ オオチャバネセセリ コチャバネセセリ
キリギリス	ウスイロササキリ カラフトキリギリス ヒメギス イブキヒメギス ハネナガキリギリス ヒメクサキリ	シジミチョウ	ルリシジミ アイノミドリシジミ ツバメシジミ カラスシジミ カバイロシジミ ベニシジミ ミドリシジミ ゴマシジミ北海道・東北亜種 ヒメシジミ北海道亜種 ムモンアカシジミ
ケラ	ケラ	タテハチョウ	コヒオドシ コムラサキ
マツムシ	カンタン		
バッタ	コバネヒナバッタ北海道亜種 ヒナバッタ トノサマバッタ ヒザグロナキイナゴ ツマグロバッタ		
イナゴ	ミカドフキバッタ Parapodisma属 サップロフキバッタ		
ヒシバッタ	ハラヒシバッタ		
セミ	コエゾゼミ アブラゼミ エゾチッチゼミ エソハルゼミ		
アワフキムシ	マルアワフキ		
アブラムシ	トドノネオオワタムシ		
サシガメ	ハネナシサシガメ		
カスミカメムシ	ハナアカカスミカメ		
ホソヘリカメムシ	キベリヘリカメムシ		
ヘリカメムシ	ヘリカメムシ		
カメムシ	ムラサキカメムシ ブチヒゲカメムシ ナガメ オオトゲシラホシカメムシ アカスジカメムシ エゾアカカメムシ ツノアカカメムシ		
アメンボ	アメンボ セアカアメンボ		
コオイムシ	オオコオイムシ		
タイコウチ	ミスカマキリ		
ホソガ	モミジハマキホソガ ヤマハハコホソガ		
ミノガ	キタクロミノガ		
ヒロスコガ	アトモンヒロスコガ		

生物目録 資-5-2 濤沸湖周辺で確認されている昆虫類 (2)

科	種	科	種
タテハチョウ	サカハチチョウ アカマダラ ミドリヒョウモン ウラギンスジヒョウモン オオウラギンスジヒョウモン ヒョウモンチョウ東北以北亜種 コヒョウモン北海道亜種 カラフトヒョウモン シロオビヒメヒカゲ北海道東部亜種 ウラギンヒョウモン クジャクチョウ ルリタテハ本土亜種 クロヒカゲ本土亜種 ジャノメチョウ サトキマダラヒカゲ フタスジチョウ北海道亜種 コムシジ北海道亜種 オオヒカゲ キベリタテハ エルタテハ シータテハ ギンボシヒョウモン北海道亜種 ヒメアカタテハ アカタテハ ヒメウラナミジャノメ	ヤママユガ	オオミスアオ本土亜種 オナガミスアオ本土亜種 ヤママユ本土亜種
アゲハチョウ	カラスアゲハ本土亜種 ミヤマカラスアゲハ キアゲハ アゲハ ヒメウスバシロチョウ	スズメガ	イブキスズメ ウチスズメ
シロチョウ	ツマキチョウ本土亜種 エゾシロチョウ モンキチョウ エゾヒメシロチョウ オオモンシロチョウ エソスジグロシロチョウ スジグロシロチョウ モンシロチョウ Pieris属	ヒトリガ	ヒトリガ
トリバガ	モウセンゴケトリバ	ヤガ	シラクモアツバ ミツボシアツバ ミスジアツバ クルマアツバ テングクロアツバ シロモンヤガ
ツトガ	シロフタスジツトガ ウスムラサキノメイガ ヒメキテンシロツトガ シロツトガ オオバツトガ ヨシツトガ ニカメイガモドキ カバイロツトガ ツマスジツトガ ナカモンツトガ エダツトガ ウスギンツトガ ヒメギンスジツトガ ハイイロホソバノメイガ トガリオオメイガ ウスベニセノメイガ クロスジツトガ カラフトヤマメイガ クロフタオビツトガ ワモンノメイガ ユウグモノメイガ ナガハマツトガ マエキツトガ クロフキオオメイガ ムモンシロオオメイガ ニセムモンシロオオメイガ ホソバヤマメイガ シロオビノメイガ ヨツボシノメイガ	ケバエ	メスアカケバエ
シャクガ	アトボシエダシャク トンボエダシャク シダエダシャク キアシシロナミシャク トビスジコナミシャク	アブ	フタスジアブ ゴマフアブ アカウシアブ ウシアブ
カレハガ	オビカレハ	ハナアブ	ヤマトヒゲナガハナアブ ヒゲナガハナアブ ホソヒラタアブ シマクロハナアブ シマハナアブ キタシマハナアブ ナミハナアブ アシフトハナアブ キベリアシフトハナアブ フタガタハラフトハナアブ ムツモンホソヒラタアブ オオシマハナアブ スズキナガハナアブ キイロナミホシヒラタアブ シロスジベッコウハナアブ
		ミバエ	ヤマハマダラミバエ
		オサムシ	セボシヒラタゴミムシ マルガタゴミムシ ゴミムシ エソカタヒロオサムシ マイマイカブリ北海道亜種 セスジアカガネオサムシカムチャッカ北海道亜種 アオゴミムシ コヨツボシゴミムシ キンナガゴミムシ オオキンナガゴミムシ
		ハンミョウ	ニワハンミョウ ミヤマハンミョウ
		ゲンゴロウ	クロスマメゲンゴロウ マメゲンゴロウ カラフトシマゲシゲンゴロウ エゾヒラタヒメゲンゴロウ ゲンゴロウ ゲンゴロウモドキ マルガタゲンゴロウ カラフトマルガタゲンゴロウ オオシマゲンゴロウ シマゲンゴロウ コシマゲンゴロウ ウスイロナガゲシゲンゴロウ キタマダラチビゲンゴロウ キベリクロヒメゲンゴロウ ヨツボシクロヒメゲンゴロウ キタヒメゲンゴロウ ヒメゲンゴロウ
		ミズスマシ	オオミズスマシ ミズスマシ
		コツブゲンゴロウ	ヒゲフトコツブゲンゴロウ アナバネコツブゲンゴロウ コツブゲンゴロウ
		ガムシ	スジヒメガムシ エソコガムシ ガムシ エソガムシ エンマハバヒロガムシ
		シテムシ	ヨツボシヒラタシテムシ オオモモフトシテムシ ヒラタシテムシ

生物目録 資-5-3 濤沸湖周辺で確認されている昆虫類 (3)

科	種	科	種
ハネカクシ	オオハネカクシ シラオビシテムシモドキ アカバトガリオオスハネカクシ	ゴミムシダマシ	カクスナゴミムシダマシ ニホンキマワリ本土亜種 ホソクビキマワリ
センチコガネ	オオセンチコガネ センチコガネ	カミキリムシ	センノキカミキリ ハンノキカミキリ エグリトラカミキリ ハンノアオカミキリ シラホシカミキリ エゾカミキリ ヨツスジハナカミキリ オオクロカミキリ ノコギリカミキリ アカハナカミキリ ブチヒゲハナカミキリ
クワガタムシ	ツヤハダクワガタ コクワガタ スジクワガタ アカアシクワガタ ミヤマクワガタ オニクワガタ ノコギリクワガタ	ハムシ	ハンノキハムシ ヒメジシガサハムシ ハッカハムシ アザミオオハムシ イタドリハムシ ルリハムシ カタクリハムシ
コガネムシ	ドウガネフィフイ ヒメコガネ ツマベニマグソコガネ マグソコガネ ヨツボシマグソコガネ マエカドコエンマコガネ アオハナムグリ ツノコガネ ツヤスジコガネ ヒメスジコガネ キンスジコガネ スジコガネ シロスジコガネ マメコガネ アオカナブン カラフトチャイロコガネ トラハナムグリ カブトムシ	オトシブミ	セアカヒメオトシブミ ドロハマキチョッキリ オオコブオトシブミ
タマムシ	フタオタマムシ	ゾウムシ	ハナウドゾウムシ コナラシギゾウムシ オオゴボウゾウムシ シラフヒョウタンゾウムシ カシワクチブトゾウムシ Phyllobius属
コメツキムシ	サビキコリ アイヌアカコメツキ ベニコメツキ カバイロコメツキ コガネコメツキ	オオゾウムシ	オオゾウムシ
ジョウカイボン	ジョウカイボン アオジョウカイ	アリ	クロヤマアリ アカヤマアリ
ホタル	ヘイケボタル	スズメバチ	トガリフタモンアシナガバチ コガタスズメバチ モンスズメバチ オオスズメバチ キイロスズメバチ クロスズメバチ
ベニボタル	キタベニボタル ホソベニボタル	クモバチ	オオモンクロクモバチ
テントウムシ	カメノコテントウ アカホシテントウ ナナホシテントウ ナミテントウ ニジュウヤホシテントウ	ミツバチ	セイヨウミツバチ ハイイロマルハナバチ北海道亜種 トラマルハナバチ北海道亜種 オオマルハナバチ北海道亜種 ニセハイイロマルハナバチ セイヨウオオマルハナバチ Bombus属
ツチハンミョウ	マルクビツチハンミョウ ムラサキオオツチハンミョウ		
アカハネムシ	アカハネムシ		
ゴミムシダマシ	ホネゴミムシダマシ		

出典)

1) 網走市立郷土博物館 (2006) 濤沸湖の昆虫一覧 濤沸湖の自然

2) 網走市 (2009~2021) 濤沸湖水鳥・湿地センター自然情報 他

※種名および配列などは、国土交通省 (2022) 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度生物リスト」に従った

(4) 魚類と底生動物

生物目録 資-6 濤沸湖で確認されている魚類

科	種	科	種
ヤツメウナギ	カワヤツメ	ヨウジウオ	ヨウジウオ
ニシン	ニシン	ボラ	メナダ
コイ	コイ（型不明） ギンブナ フナ属（Carassius属） シュウサンウグイ ウグイ	サヨリ	サヨリ
フクドジョウ	フクドジョウ エゾホトケドジョウ	メバル	クロソイ メバル属（Sebastes属）
キュウリウオ	ワカサギ	アイナメ	アイナメ
シラウオ	シラウオ	ケムシカジカ	イソバテング
サケ	イトウ アメマス ニジマス サケ ヒメマス カラフトマス サクラマス サクラマス（ヤマメ）※1 サツキマス（アマゴ）	カジカ	シモフリカジカ
タラ	コマイ	クサウオ	クサウオ
トゲウオ	イトヨ属（Gasterosteus属） トミヨ	タウエガジ	ヌイメガジ
		ハゼ	アシシロハゼ ヌマチチブ チチブ ウキゴリ ピリンゴ ジュズカケハゼ
		サバ	サバ属（Scomber属）
		カレイ	ヌマガレイ トウガレイ クロガシラガレイ

出典)

1) 社団法人北海道水産資源技術開発協会（1978）斜網西部地区漁業影響調査報告書（濤沸湖）調査資料編

2) 社団法人北海道栽培漁業振興公社（1993）斜網西部地区濤沸湖漁業影響調査報告書

3) 網走市（2009～2021）濤沸湖水鳥・湿地センター自然情報 他

※サクラマスは降海型と陸封型を区別したため、陸封型をサクラマス（ヤマメ）とした

※種名および配列などは、国土交通省（2022）「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度生物リスト」に従った

生物目録 資-7 瀬沸湖内と流入河川で確認されている底生動物

科	種	科	種
(刺胞動物門)	(注1)	ヒラタカゲロウ	ウエノヒラタカゲロウ エルモンヒラタカゲロウ ユミモンヒラタカゲロウ Epeorus属 ヒメヒラタカゲロウ Rhithrogena属
(三岐鰓目)	(注1)	サナエトンボ	(注1)
(無針綱)	(注1)	オナシカワゲラ	Amphinemura属 Nemoura属 Protonemura属 (注1)
ウミニナ	ホソウミニナ	シタカワゲラ	(注1)
ワカウラツボ	カワグチツボ	ミドリカワゲラ	(注1)
タマキビ	タマキビガイ クロタマキビ エソタマキビ	カワゲラ	Flavoperla属 Togoperla属 (種不明)
カワザンショウガイ	デシオカワザンショウガイ (注1)	アミメカワゲラ	Skwala属 (注1)
モノアラガイ	モノアラガイ	シマトビケラ	Arctopsyche属 コガタシマトビケラ Diplectrona属 ウルマーシマトビケラ Hydropsyche属 シロフツヤトビケラ
ハダカカメガイ	(注1)	ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ
(柄眼目)	(注1)	ヤマトビケラ	Agapetus属 イノブスヤマトビケラ Glossosoma属
(腹足綱)	(注1)	カワリナガレトビケラ	ツメナガレトビケラ
カワシンジュガイ	カワシンジュガイ	ナガレトビケラ	ヒロアタマナガレトビケラ ホッカイドウナガレトビケラ カウムラナガレトビケラ ムナグロナガレトビケラ トランスウィラナガレトビケラ Rhyacophila属
シジミ	ヤマトシジミ Corbicula属	コエグリトビケラ	Apatania属
マメシジミ	Pisidium属	カクスイトビケラ	アメリカカクスイトビケラ Brachycentrus属 Micrasema属
マルスタレガイ	アサリ ヒメアサリ	ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ Goera属
ニッコウガイ	シラトリモドキ サビシラトリガイ タカホコシラトリ	カクツツトビケラ	Lepidostoma属
シオサザナミ	イソシジミ	エグリトビケラ	ジョウザンエグリトビケラ トビモンエグリトビケラ (注1)
ハカガイ	ウバガイ	(エグリトビケラ亜科)	
オキナガイ	ソトオリガイ	クロツツトビケラ	Neophylax属 (トビケラ目)
オオノガイ	オオノガイ	オビヒメガガンボ	Dicranota属 ダイミョウガガンボ
ゴカイ	Hediste属 (注1)	ヒメガガンボ	Antocha属 Hexatoma属
イトゴカイ	イトゴカイ (注1)	ガガンボ	Tipula属 (注1)
(ゴカイ綱)	(注1)	アミカ	(注1)
(ミミズ綱)	(注1)	ヌカカ	(注1)
ウオビル	ウオビル	ユスリカ	オオユスリカ (注1)
ユンボソコエビ	ニホンドロソコエビ (注1)	ブユ	(注1)
キタヨコエビ	トゲオヨコエビ (注1)	ナガレアブ	(注1)
(ヨコエビ目)	(注1)	シギアブ	(注1)
ヘラムシ	(注1)	ミスアブ	(注1)
コツプムシ	イソコツプムシ (注1)	アブ	(注1)
アミ	クロイサザアミ	オドリバエ	(注1)
テナガエビ	イソスジエビ スジエビ Palaemon属	ガムシ	(注1)
エビジャコ	エビジャコ Crangon属	ヒメドロムシ	(注1)
ザリガニ	ウチダザリガニ	ナガドロムシ	Heterocerurus属
スナモグリ	スナモグリ		
モクスガニ	モクスガニ ケフサイソガニ イソガニ (注1)		
(異尾下目)	(注1)		
(短尾下目)	(注1)		
トビイロカゲロウ	ナミトビイロカゲロウ Paraleptophlebia属		
モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ Ephemera属		
マダラカゲロウ	クロマダラカゲロウ ヨシノマダラカゲロウ フタマダラカゲロウ ミツゲマダラカゲロウ クシゲマダラカゲロウ Ephemeraella属 アカマダラカゲロウ		
ヒメフタオカゲロウ	マエグロヒメフタオカゲロウ		
コカゲロウ	Baetiella属 シロハラコカゲロウ Baetis属		
チラカゲロウ	チラカゲロウ		
ヒラタカゲロウ	Cinygmula属 Ecdyonurus属		

出典)

- 1) 社団法人北海道水産資源技術開発協会（1978）斜網西部地区 漁業影響調査報告書（瀬沸湖） 調査資料編
- 2) 社団法人北海道栽培漁業振興公社（1993）平成5年度斜網西部地区瀬沸湖漁業影響調査報告書
- 3) 桑原連（2000）網走4湖沼の底生動物（マクロベントス）の分布、網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書
- 4) 網走市（1978）網走市水産振興基本計画（オホーツク・マリン・プロジェクト イン 網走）
- 5) 網走市（2009～2021）瀬沸湖水鳥・湿地センター自然情報 他

注1 門、目、綱、科、亜科まで同定されたが、種の同定までは至らなかったものを指す

※種名および配列などは、国土交（2022）「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和4年度生物リスト」に従った

(5) 植物

生物目録 資-8-1 瀬沸湖周辺で確認されている植物 (1)

科	種	科	種	科	種
トクサ	スギナ ミズドクサ トクサ	ヒガンバナ	ミヤマラッキョウ ギョウジャニンニク	イネ	カズノコグサ コスズメノチャヒキ ヤマアワ Calamagrostis属 イワノガリヤス チシマガリヤス カモガヤ アキメヒシバ イヌビエ タイヌビエ ハママギ シバムギ オオウシノケグサ ヒロハノドジョウツナギ テンキグサ ネスミムギ ホソムギ コメガヤ オギ ススキ オオネズミガヤ クサヨシ オオアワガエリ ヨシ ツルヨシ スズメノカタビラ ホソバナソモソモ オオイチゴツナギ ヌマイチゴツナギ ナガハグサ ヒメカラフトイチゴツナギ イチゴツナギ オオスズメノカタビラ チシマドジョウツナギ ミヤコザサ クマイザサ Sasa属 ツクバナンブスズ オニウシノケグサ ヒロハノウシノケグサ アキノエノコログサ キンエノコロ エノコログサ ムラサキエノコロ ホソバドジョウツナギ
ハナヤスリ	エゾフユノハナワラビ ナツノハナワラビ	クサスギカズラ	キジカクシ スズラン コバギボウシ タチギボウシ マイツルソウ ユキザサ ヒメイズイ ミヤマナルコユリ オオアマドコロ アマドコロ	マツモ (広義)	マツモ (広義)
ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	ツクサ	ミクリ	ケシ	クサノオウ エゾエンゴサク エソキゲマン
コバノイシカグマ	ワラビ	ガマ	ガマ コガマ	メギ	ルイヨウボタン
イノモトソウ	クジャクシダ	ホシクサ	ヒロハノイヌノヒゲ	キンボウゲ	シレトコブシ カラフトブシ エソトリカブト Aconitum属 キタミフクジュソウ フクジュソウ ヒメイチゲ フタマタイチゲ ニリンソウ キクザキイチゲ アズマイチゲ エンコウソウ リュウキンカ サラシナショウマ ミヤマキンボウゲ バイカモ ハイキンボウゲ タガラシ キツネノボタン シコタンキンボウゲ カラマツソウ アキカラマツ エソカラマツ モミジカラマツ
ヒメシダ	ミヤマウラボ メニッコウシダ ニッコウシダ ヒメシダ	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ イグサ ヒメイ イヌイ エソホソイ ドロイ ハマイ タチコウガイゼキショウ ホソイ クサイ ハリコウガイゼキショウ スズメノヤリ ヤマスズメノヒエ	ツゲ	フッキソウ
コウヤワラビ	コウヤワラビ クサソテツ	カヤツリグサ	コウキヤガラ クロカワズスゲ ショウジョウスゲ ヒメカワズスゲ ハクサンズゲ ハリガネズゲ ショウロウスゲ ヒメカンズゲ クリイロズゲ カサズゲ オクノカンズゲ ネムロズゲ コハリスゲ コウボウムギ ヒカゲズゲ ヤラメズゲ エゾノコウボウムギ チャシバズゲ ホソバオゼヌマスゲ ヒカゲハリスゲ ウスイロズゲ ツルスゲ コウボウシバ ウシオズゲ オオカサズゲ アズマナルコ アカンカサズゲ オオカワズスゲ ヒメウシオズゲ アゼズゲ Carex属 ウシクグ カワラスガナ マツバイ ヒメハリイ クロハリイ オオヌマハリイ チャボイ サギズゲ オオイヌノハナヒゲ ホタルイ シズイ フトイ エソアブラガヤ アブラガヤ	ボタン	ヤマシャクヤク ベニバナヤマシャクヤク
メシダ	エソメシダ ホソバシクシダ			ユキノシタ	トリアシショウマ エゾネコノメソウ ツルネコノメソウ ネコノメソウ Chrysosplenium属 ムラサキベンケイソウ ミツバベンケイソウ
オシダ	オシダ タニヘゴ			ベンケイソウ	
マツ	トドマツ カラマツ アカエゾマツ				
イチイ	イチイ				
マツブサ	チョウセンゴミシ				
センリョウ	ヒトリシズカ フタリシズカ				
モクレン	キタコブシ ホオノキ				
サトイモ	マムシグサ コウライテンナンショウ ヒメウキグサ ミスバショウ				
オモダカ	サシオモダカ				
シバナ	シバナ ホソバナノシバナ				
アマモ	コアマモ アマモ				
ヒルムシロ	イトモ センニンモ ヒロハノエビモ ツツイトモ リュウノヒゲモ イトクズモ				
カワツルモ	カワツルモ ヤハスカワツルモ				
シュロソウ	ククルマバツクバナソウ エンレイソウ オオバナノエンレイソウ バイケイソウ				
イヌサフラン	ホウチャクソウ チゴユリ				
ユリ	オオウバユリ クロユリ キバナノアマナ エソヒメアマナ ヤマユリ オニユリ クルマユリ エソスカシユリ				
ラン	ササバギラン サイハイラン アオスズラン オニヤガラ オオミズトンボ オゼノサワトンボ クモキリソウ スズムシソウ コケイラン ヒロハトンボソウ ミスチドリ オオヤマサギソウ トンボソウ Platanthera属 トキソウ ネジバナ				
アヤメ	ハナショウブ ノハナショウブ キショウブ ヒオウギアヤメ	イネ	ハネガヤ ヌカボ コスカグサ エゾヌカボ スズメノテッポウ オオスズメノテッポウ コウボウ ハルガヤ トダシバ		
ススキノキ	ゼンテイカ エソキスゲ				
ヒガンバナ	ノビル アサツキ シロウマアサツキ エソネギ				

生物目録 資-8-2 瀬沸湖周辺で確認されている植物 (2)

科	種	科	種	科	種
ベンケイソウ	キリンソウ エゾノキリンソウ ウスユキマンネングサ タイトゴメ ツルマンネングサ アズマツメクサ	ウリ	アレチウリ	タデ	ソバカズラ ツルタデ オオイタドリ エゾノミズタデ ヤナギタデ サナエタデ オオイヌタデ イヌタデ ハルタデ ヤノネグサ タニソバ ハナタデ アキノウナギツカミ オオミソソバ ミソソバ ミチヤナギ ハイミチヤナギ アキノミチヤナギ スイバ ヒメスイバ ナガバギシギシ ギシギシ ノダイオウ エゾノギシギシ
アリノトウグサ	ホザキノフサモ	ニシキギ	ツルウメモドキ イヌツルウメモドキ オニツルウメモドキ ニシキギ ヒロハノツリバナ マユミ ウメバチソウ	モウセンゴケ	モウセンゴケ
ブドウ	ヤマブドウ	カタバミ	エゾタチカタバミ	ナデシコ	オオヤマフスマ ミミナグサ オランダミミナグサ カワラナデシコ エゾカワラナデシコ ハマハコベ ツメクサ サボンソウ ムシトリナデシコ ナンバンハコベ マンテマ マツヨイセンノウ ツキミセンノウ シラタマソウ ウシオツメクサ ウスベニツメクサ ウシハコベ シラオイハコベ カラフトホソバハコベ エゾハコベ ナガバツメクサ コハコベ ミドリハコベ エゾオオヤマハコベ ノミノフスマ
マメ	イタチハギ ヤブマメ ヌスビトハギ ハマエンドウ エゾノレンリソウ ヤマハギ タヨウハウチワマメ イヌエンジュ コメツブウマゴヤシ シロバナシナガワハギ ハリエンジュ センダイハギ テマリツメクサ クスタマツメクサ コメツブツメクサ タチオランダゲンゲ ムラサキツメクサ シロツメクサ クサフジ ヒロハクサフジ ヨツバハギ オオバクサフジ ナンテンハギ	トウダイグサ	マツバトウダイ コニシキソウ	ヒユ	イヌビユ アオゲイトウ ホナガイヌビユ ホソバハマアカザ ハマアカザ シロザ ウラジロアカザ アッケシソウ オカヒシキ
ニレ	ハルニレ オヒョウ	ヤナギ	ドロヤナギ バッコヤナギ トカチヤナギ カワヤナギ エゾノカワヤナギ エゾノクヌヤナギ クヌヤナギ タチヤナギ オノエヤナギ	スベリヒユ	スベリヒユ
アサ	カラハナソウ	スミレ	エゾノタチツボスミレ タチツボスミレ オオバタチツボスミレ オオタチツボスミレ スミレ シロスミレ アカネスミレ アイヌタチツボスミレ ミヤマスミレ ツボスミレ	ミズキ	ミズキ
クワ	ヤマグワ	オトギリソウ	トモエソウ オトギリソウ ミスオトギリ	アジサイ	ツルアジサイ ノリウツギ イワガラミ
イラクサ	ミズ アオミス ホソバイラクサ エゾイラクサ	フウロソウ	イチゲフウロ ゲンノショウコ ミツバフウロ ハマフウロ エゾフウロ	ツリフネソウ	キツリフネ ツリフネソウ
バラ	キンミズヒキ エゾツルキンバイ アズキナシ ヤマブキショウマ ミヤマザクラ オオヤマザクラ クロバナロウゲ オニシモツケ エゾノシモツケソウ シロバナノヘビイチゴ オオダイコンソウ ダイコンソウ カラフトダイコンソウ Geum属 エゾノコリンゴ ズミ エゾノウウミズサクラ シウリザクラ キシムシロ ミツバツチグリ ヒロハノカワラサイコ オオヘビイチゴ ツルキシムシロ スモモ カラフトイバラ ハマナス エゾキイチゴ ナウシロイチゴ エビガライチゴ ナガボノワレモコウ ナナカマド エゾシモツケ ホザキシモツケ	ミノハギ	エゾミノハギ	サクラソウ	ウミミドリ ヤナギトラノオ クサレタマ クリンソウ
ブナ	ミスナラ カシワ	アカバナ	ヤナギラン ミズタマソウ イワアカバナ カラフトアカバナ エゾアカバナ ホソバアカバナ アカバナ メマツヨイグサ オオマツヨイグサ アレチマツヨイグサ Oenothera属	マタタビ	サルナシ ミヤママタタビ マタタビ
ヤママモ	ヤチヤナギ	ウルシ	ヤマウルシ	ツツジ	ベニバナイチヤクソウ イチヤクソウ エゾムラサキツツジ イソツツジ ツルコケモモ
クルミ	オニグルミ	ムクロジ	イタヤカエデ (広義) エゾイタヤ	アカネ	トゲナシムグラ クルマバソウ オオバナヤエムグラ トゲナシヤエムグラ ホソバナヨツバムグラ キバナカワラマツバ
カバノキ	ケヤマハンノキ ハンノキ ヤチハンノキ ダケカンバ ウダイカンバ シラカンバ	ミカン	キハダ ヒロハノキハダ		
ウリ	ゴキツル ミヤマニガウリ	アオイ	ゼニバアオイ		
		アブラナ	ミヤマハタザオ シロイヌナズナ ヤマハタザオ ハマハタザオ セイヨウワサビ ハルザキヤマガラシ オニハマダイコン ナズナ ジャンジン コンロンソウ ハナタネツケバナ オオバタネツケバナ エソワサビ エソハタザオ ナタネハタザオ クジラグサ ハマタイセイ ヒメグンバイナズナ ウロコナズナ マメグンバイナズナ オランダガラシ ハマダイコン イヌガラシ スカシタゴボウ キレハインガラシ ハタザオガラシ ハタザオ ヤドリギ		
		ビャクダン	ヤドリギ		

生物目録 資-8-3 濁沸湖周辺で確認されている植物 (3)

科	種	科	種	科	種
アカネ	エゾノカワラマツバ チョウセンカワラマツバ カワラマツバ アカネムグラ	ハエドクソウ	ミソホオズキ ハエドクソウ	キク	オオハンゴンソウ ハナガサギク ハンゴンソウ エゾオグルマ ノボロギク セイタカアワダチソウ オオアワダチソウ アキノキリンソウ ミヤマアキノキリンソウ アレチノゲシ オニノゲシ ハチジョウナ ノゲシ ユウゼンギク セイヨウタンポポ エゾタンポポ シカギク ウラギク オナモミ
リンドウ	エゾリンドウ フデリンドウ	タヌキモ	コタヌキモ	ウコギ	ウド タラノキ エゾウコギ オオチドメ ハリギリ
キョウチクトウ	イケマ ガガイモ	キキョウ	モイワシャジン ツリガネニンジン ツルニンジン サウギキョウ	セリ	エゾボウフウ イワミツバ オオバセンキュウ シシウド エゾニユウ シャク ホタルサイコ ドクゼリ エゾノシシウド ミヤマセンキュウ カラフトニンジン ミツバ ノラニンジン ハマボウフウ オオハナウド マルバトウキ セリ ヤブニンジン オオカサモチ ウマノミツバ ヤブシラミ
ヒルガオ	ヒルガオ ヒロハヒルガオ ハマヒルガオ ネナンカズラ	ミツガシワ	ミツガシワ	ガマズミ	レンブクソウ エゾニワトコ カンボク ミヤマガマズミ
ナス	オオマルバノホロシ イヌホオズキ ジャガイモ	キク	ノコギリソウ キタノコギリソウ セイヨウノコギリソウ エゾノコギリソウ ヤマハハコ ゴボウ イワヨモギ オトコヨモギ ハマオトコヨモギ ヒロハウラシロヨモギ オオヨモギ シロヨモギ チシマヨモギ ゴマナ エゾノコンギク アメリカセンダングサ エゾノタウコギ タウコギ ミヤマアブラハコ トキンソウ キクニガナ エゾノサワアザミ タカアザミ エゾノキツネアザミ アメリカオニアザミ Cirsium属 ヤネタヒラコ ヒメジョオン ヒメムカシヨモギ ハラバヒメジョオン ヨツバヒドドリ ヒヨドリバナ (広義) ヒメチチコグサ ヤナギタンポポ オグルマ カセンソウ ハマニガナ アキノノゲシ ヤマニガナ エゾムラサキニガナ センボンヤリ フランスギク カミツレ コシカギク ミミコウモリ ヨブスマソウ アキタブキ コウゾリナ コウリンタンポポ キバナコウリンタンポポ キヌガサギク	スライズラ	ネムロフシダマ オミナエシ
ムラサキ	ハマベンケイソウ ノハラムラサキ ヒレハリソウ				
モクセイ	ヤチダモ ハシドイ				
オオバコ	ミズハコベ スギナモ ウンラン オオバコ エゾオオバコ トウオオバコ ヘラオオバコ セイヨウオオバコ エゾノカワチシャ タチイヌノフグリ オオイヌノフグリ コテンクウガタ				
ゴマノハグサ	ヒロードモウズイカ				
アゼナ	アゼナ				
シソ	カワミドリ カイジンドウ クルマバナ イストウバナ ミヤマトウバナ ムシャリンドウ ナギナタコウシュ チシマオドリコソウ カキドオシ セイヨウカキドオシ オドリコソウ シロネ ゲシロネ ヒメシロネ エゾシロネ ハッカ ヒメジソ ミソガワソウ エゾミソガワソウ ウツボグサ ヒメナミキ ナミキソウ エゾナミキ エゾイヌゴマ イヌゴマ				

出典)

1) 網走市立郷土博物館 (2006) とうふつ湖の植物一覧

2) 網走市 (2009~2021) 濁沸湖水鳥・湿地センター自然情報 他

※種名および配列などは、国土交通省 (2022) 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和 4 年度生物リスト」に
従った

(6) 希少種

生物目録 資-9-1 湧沸湖周辺で確認されている希少種 (1)

分類	科	種	文化財保護法	種の保存法	北海道条例	環境省RL	北海道RL
哺乳類	ヒナコウモリ	コテングコウモリ					N
	リス	シマリス (エゾシマリス)				DD	Dd
	アシカ	トド				NT	Nt

分類	科	種	文化財保護法	種の保存法	北海道条例	環境省RL	北海道RL
鳥類	キジ	エゾライチョウ				DD	Nt
		ウズラ				VU	Nt
	カモ	サカツラガン				DD	Dd
		ヒシクイ	天然			※1	N
		マガン	天然			NT	N
		カリガネ				EN	Nt
		ハクガン				CR	N
		シジュウカラガン		国内		CR	Vu
		コクガン	天然			VU	N
		オンドリ				DD	Nt
		トモエガモ				VU	N
		シノリガモ				LP※2	
	コウノトリ	コウノトリ	特別	国内		CR	Cr
	ウ	ヒメウ				EN	En
		サンカノゴイ				EN	En
	サギ	ヨシゴイ				NT	
		チュウサギ				NT	
	トキ	ヘラサギ				DD	
		クロツラヘラサギ		国内		EN	Dd
	ツル	マナツル		国際		VU	Dd
		タンチョウ	特別	国内		VU	Vu
		クロツル				DD	
		ナベツル		国際		VU	
	クイナ	ヒクイナ				NT	Dd
	チドリ	ケリ				DD	
		イカルチドリ					Dd
		シロチドリ				VU	Nt
		メダイチドリ		国際			
		オオメダイチドリ		国際			
	セイタカシギ シギ	セイタカシギ				VU	Nt
		ヤマシギ					N
		オオジシギ				NT	Nt
		オオソリハシシギ				VU	Dd
		コジャクシギ		国際		EN	En
		ホウロクシギ		国際		VU	Vu
		ツルシギ				VU	Vu
		アカアシシギ				VU	Vu
		カラフトアオアシシギ		国内		CR	Cr
		タカブシギ				VU	Vu
		オハシギ		国際			
		コオハシギ		国際			
		サルハマシギ		国際			
		チシマシギ				DD	Dd
		ハマシギ				NT	Nt
		ヘラシギ		国内		CR	Cr
		ツバメチドリ				VU	Dd
	カモメ	ツバメチドリ				VU	
		ズグロカモメ					
		ウミネコ					Nt
		オオセグロカモメ				NT	Nt
		コアシサシ		国際		VU	
	ウミスズメ	ウミスズメ				CR	Vu
	ミサゴ	ミサゴ				NT	Nt
	タカ	オジロワシ	天然	国内		VU	Vu
		オオワシ	天然	国内		VU	Vu
		チュウビ		国内		EN	En
		ハイタカ				NT	Nt
		オオタカ				NT	Nt
		クマタカ		国内		EN	En
	フクロウ	シロフクロウ					Dd
		トラフスク					Nt
	カワセミ	ヤマセシ					N
		コアカゲラ					Dd
	ハヤブサ	オオアカゲラ					Dd
		シロハヤブサ		国際			Dd
		ハヤブサ		国内		VU	Vu
	モズ	ハヤブサ		国内		VU	Vu
		アカモズ		国内		EN	En
	ムシクイ	オオムシクイ				DD	Lp
	センニュウ	マキノセンニュウ				NT	Nt
	セキレイ	ツメナガセキレイ					Nt
	アトリ	ギンザンマシコ					Nt
	ホオジロ	ホオアカ					Nt
		シマアオジ		国内		CR	Cr

※1 環境省 RL：亜種ヒシクイ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)、亜種オオヒシクイ：準絶滅危惧 (NT)

※2 絶滅のおそれのある地域個体群 (東北地方以北のシノリガモ繁殖個体群)

生物目録 資-9-2 濤沸湖周辺で確認されている希少種（2）

分類	科	種	文化財保護法	種の保存法	北海道条例	環境省RL	北海道RL
昆虫類 (陸上)	イトトンボ	アカメイトトンボ				CR	Vu
		マンシュウイトトンボ					R
		セスジイトトンボ					R
	トンボ	ナツアカネ					R
		エゾアカネ				EN	R
	キリギリス	カラフトキリギリス					R
	コオイムシ	オオコオイムシ					R
	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ				NT	Dd
	シジミチョウ	カバイロシジミ				NT	
		ゴマシジミ北海道・東北亜種				NT	N
	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン				VU	
		カラフトヒョウモン				NT	
		ヒョウモンチョウ東北以北亜種				NT	Dd
	ツツガ	ヒメギンスジツツガ					Nt
	ヤマユガ	オナガミスアオ本土亜種				NT	
	ゲンゴロウ	キタマダラチビゲンゴロウ					Nt
		エゾヒラタヒメゲンゴロウ					Nt
		キベリクロヒメゲンゴロウ				NT	
		キタヒメゲンゴロウ					Nt
		ゲンゴロウ		二種		VU	Nt
		マルガタゲンゴロウ		二種		VU	
		カラフトマルガタゲンゴロウ				NT	Nt
		シマゲンゴロウ				NT	Nt
		オオミズスマシ				NT	
	ミズスマシ	ミズスマシ				VU	Nt
		ヒゲフトコツブゲンゴロウ					Nt
		アナハネコツブゲンゴロウ					Nt
	ガムシ	エゾコガムシ				NT	N
		ガムシ				NT	
		エゾガムシ				NT	Dd
	カミキリムシ	エゾカミキリ					Nt
	スズメバチ	モンズズメバチ				DD	

分類	科	種	文化財保護法	種の保存法	北海道条例	環境省RL	北海道RL
魚類	ヤツメウナギ	カワヤツメ				VU	Nt
	コイ	シュウサンウグイ					N
	フクドジョウ	エゾホトケドジョウ				EN	En
	シラウオ	シラウオ					Vu
	サケ	イトウ				EN	En
		サクラマス				NT	N
		サクラマス（ヤマメ）				NT	N
	トゲウオ	イトヨ属（Gasterosteus属）					N
	ハゼ	ジュズカケハゼ				NT	

※サクラマスは降海型と陸封型を区別したため、陸封型をサクラマス（ヤマメ）とした。

分類	科	種	文化財保護法	種の保存法	北海道条例	環境省RL	北海道RL
底生 動物	ワカウラツボ	カワグチツボ				NT	
	モノアラガイ	モノアラガイ				NT	
	カワシンジュガイ	カワシンジュガイ				EN	
	シジミ	ヤマトシジミ				NT	
	ニッコウガイ	サビシラトリガイ				NT	
		タカホコシラトリ				CR+EN	
	オオノガイ	オオノガイ				NT	

生物目録 資-9-3 瀬沸湖周辺で確認されている希少種 (3)

分類	科	種	文化財保護法	種の保存法	北海道条例	環境省RL	北海道RDB
植物	ホロムイソウ	シバナ				NT	
		ホソバナシバナ				VU	
	ヒルムシロ	イトモ				NT	
		ツツイトモ				VU	
		リュウノヒゲモ				NT	
		イトクスモ				VU	Vu
	カワツルモ	カワツルモ				NT	
		ヤハズカワツルモ				CR	En
	ユリ	クロユリ					R
		エゾヒメアマナ				VU	R
	ラン	オオミズトンボ				EN	R
		オゼノサウトンボ					Vu
		ヒロハトンボソウ				VU	
		トキソウ				NT	Vu
	クサスギカズラ	スズラン					Vu
	ミクリ	ミクリ				NT	R
	カヤツリグサ	ジョウロウスゲ				VU	R
		クリイロスゲ				VU	Vu
		ネムロスゲ				NT	
		ホソバオゼヌマスゲ				NT	
		ウシオスゲ				EN	Vu
		アカンカサスゲ					R
		ヒメウシオスゲ				NT	
		チャボイ				VU	
		シズイ					R
		ホソバナソモソモ					R
	キンボウゲ	ヒメカラフトイチゴツナギ					R
		ホソバドショウツナギ				CR	
		シレットコフシ				EN	
		キタミフクジュソウ					Vu
		フクジュソウ					Vu
		フタマタイチゲ				VU	R
		リュウキンカ					En
		バイカモ					R
	ボタン	シコタンキンボウゲ				NT	
		ヤマシャクヤク				NT	R
		ベニバナヤマシャクヤク				VU	En
	ベンケイソウ	ムラサキベンケイソウ				VU	
		アズマツメクサ				NT	R
	バラ	ヒロハノカワラサイコ				VU	
		カラフトイバラ					R
		エゾシモツク				VU	
	ウリ	ゴキツル					R
	スミレ	オオバタチツボスミレ				NT	
	アブラナ	ハナタネツクバナ				EN	Vu
		ハマタイセイ				CR	En
	タデ	エゾノミスタデ					Vu
		ノダイオウ				VU	
	ナデシコ	エゾハコベ				EN	Vu
	アカザ	アッケシソウ				VU	R
	サクラソウ	クリンソウ					Vu
	ツツジ	エゾムラサキツツジ				VU	
	シソ	カイジンドウ				VU	
		ムチャリンドウ				VU	Vu
		エゾナミキ				VU	
	キク	キタノコギリソウ				VU	
		イワヨモギ				VU	
		チシマヨモギ					R
		ウラギク				NT	
		オナモミ				VU	
	スイカズラ	ネムロブシダマ				VU	

(7) 外来種

生物目録 資-10-1 瀬波湖周辺で確認されている外来種 (1)

分類	科	種	環境省外来法	生態系被害防止	北海道BL	北海道条例	日本ワースト
哺乳類	イタチ	ミンク	特定		国外A1		

分類	科	種	環境省外来法	生態系被害防止	北海道BL	北海道条例	日本ワースト
鳥類	キジ	キジ		国外・その他総合	国外B		○
	カモ	コブハクチョウ		国外・その他総合	国外A3		
	ハト	カワラバト(ドバト)			国外A3		○

分類	科	種	環境省外来法	生態系被害防止	北海道BL	北海道条例	日本ワースト
昆虫類 (陸上)	ハマキガ	カラマツヒメハマキ			国内A3		
	シロチョウ	オオモンシロチョウ			国外A3		
	コガネムシ	カブトムシ		国内・その他総合	国内A2		
	ミツバチ	セイヨウオオマルハナバチ	特定	国外・産業	国外A1		○

分類	科	種	環境省外来法	生態系被害防止	北海道BL	北海道条例	日本ワースト
魚類	コイ	コイ (型不明)			国内A3		
	サケ	ニジマス			国外A2		○
		サツキマス (アマゴ)			国内A3		

分類	科	種	環境省外来法	生態系被害防止	北海道BL	北海道条例	日本ワースト
底生動物	ザリガニ	ウチダザリガニ	特定		国外A1		○

分類	科	種	環境省外来法	生態系被害防止	北海道BL	北海道条例	日本ワースト
植物	マツ	カラマツ			国内B		
		ヤマユリ			国内B		
	ユリ	オニユリ			国外B		
		ハナショウブ			国外D		
	アヤメ	キショウブ		国外・重点	国外A2		○
		コヌカグサ		国外・産業	国外A3		
	イネ	オオスズメノテッポウ			国外B		
		ハルガヤ		国外・その他総合	国外A3		
		シバムギ			国外A3		
		オオウシノケグサ			国外B		
		ネズミムギ		国外・産業	国外A3		
		ホソムギ		国外・産業	国外A3		
		クサヨシ			国外A3		
		オオアワガエリ		国外・産業	国外A3		
		ヌマイチゴツナギ			国外B		
		ナガハグサ			国外A3		
		オオスズメノカタビラ			国外A3		
		オニウシノケグサ		国外・産業	国外A3		○
		ヒロハノウシノケグサ			国外A3		
	ベンケイソウ	ウスユキマンネングサ			国外B		
		ツルマンネングサ			国外B		
	マメ	イタチハギ		国外・重点	国外A3		○
		タヨウハウチワマメ		国外・重点	国外A3		
		コメツブウマゴヤシ			国外A3		
		シロバナシナガワハギ			国外A3		
		ハリエンジュ		国外・産業	国外A2		○
		テマリツメクサ			国外B		
		クスタマツメクサ			国外B		
		コメツブツメクサ			国外B		
		タチオランダゲンゲ			国外A3		
		ムラサキツメクサ			国外A2		
		シロツメクサ			国外A2		
	バラ	オオヘビイチゴ			国外B		
		スモモ			国外B		
	ウリ	アレチウリ	特定	国外・緊急	国外A3		○
	トウダイグサ	マツバトウダイ			国外B		
		コニシキソウ			国外B		
	アカバナ	メマツヨイグサ			国外A3		
		オオマツヨイグサ			国外A3		
		アレチマツヨイグサ			国外B		
	アオイ	ゼニハアオイ			国外B		

生物目録 資-10-2 瀬波湖周辺で確認されている外来種 (2)

分類	科	種	環境省外来法	生態系被害防止	北海道BL	北海道条例	日本ワースト
植物	アブラナ	シロイヌナズナ			国外B		
		セイヨウウサビ			国外A3		
		ハルザキヤマガラシ		国外・その他総合	国外A3		○
		オニハマダイコン		国外・その他総合	国外A3		
		ナタネハタザオ			国外B		
		クジラグサ			国外B		
		ヒメグンバイナズナ			国外B		
		ウロコナスナ			国外B		
		マメグンバイナズナ			国外B		
		オランダガラシ		国外・重点	国外A2		
		キレハイスガラシ			国外A3		
		ハタザオガラシ			国外B		
	タデ	ソバカズラ			国外B		
		ツルタデ			国外B		
		ハイミチヤナギ			国外A3		
		ヒメスイバ		国外・その他総合	国外A3		
		ナガバキシギシ		国外・その他総合	国外A3		
		キシギシ		国内・その他総合			
	ナデシコ	エソノキシギシ		国外・その他総合	国外A3		
		オランダミミナグサ			国外B		
		サボンソウ			国外B		
		ムシトリナデシコ		国外・その他総合	国外A3		
		マンテマ		国外・その他総合			
		マツヨイセンノウ			国外A3		
		ツキミセンノウ			国外B		
		シラタマソウ			国外B		
		ウスベニツメクサ			国外B		
		カラフトホソバハコベ			国外A3		
	ヒユ	コハコベ			国外A3		
		イヌビユ			国外B		
		アオゲイトウ			国外A3		
	アカザ	ホナガイヌビユ			国外B		
		シロザ			国外B		
	アカネ	ウラジロアカザ			国外B		
		トゲナシムグラ			国外A3		
	ナス	トゲナシヤエムグラ			国外B		
		イヌホオズキ			国外A3		
	ムラサキ	ノハラムラサキ			国外A3		
		ヒレハリソウ			国外A3		
	オオハコ	ヘラオオハコ			国外A2		
		セイヨウオオハコ			国外B		
	ゴマノハグサ	タチヌノフグリ			国外B		
		オオイヌノフグリ			国外B		
		コテングクワガタ			国外B		
		ビロードモウズイカ			国外A3		
		チシマオドリコソウ			国外A3		
		セイヨウノコギリソウ			国外A3		
	シソ キク	ゴボウ			国外A3		
		アメリカセンダングサ		国外・その他総合	国外A3		
		キクニガナ			国外B		
		アメリカオニアザミ		国外・その他総合	国外A2		
		ヤネタヒラコ			国外A3		
		ヒメジョオン		国外・その他総合	国外A3		○
		ヒメムカシヨモギ			国外A3		
		ヘラバヒメジョオン			国外B		
		ヒメチチコグサ			国外B		
		フランスギク		国外・その他総合	国外A2	指定	
		カミツレ			国外B		
		コシカギク			国外B		
		コウリンタンボボ		国外・その他総合	国外A2		○
		キバナコウリンタンボボ		国外・その他総合	国外A2		○
		キヌカサギク		国外・その他総合	国外B		
		オオハンゴンソウ	特定	国外・緊急	国外A2		
		ノボロギク			国外A3		
		セイタカアワダチソウ		国外・重点	国外A2		○
		オオアワダチソウ		国外・重点	国外A2		○
		アレチノゲシ			国外B		
		オニノゲシ			国外B		
		ユウゼンギク		国外・その他総合	国外A3		
		セイヨウタンボボ		国外・重点	国外A2		○
	セリ	イワミツバ			国外A2	指定	
		ノラニンジン			国外A3		

希少種と外来種の選定基準

① 希少種の選定条件

- 「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)
(特別：特別天然記念物 天然：天然記念物)
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」
(平成 4 年 法律第 75 号)
(国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 緊：緊急指定種
一種：特定第一種国内希少野生動植物種 二種：特定第二種国内希少野生動植物種)
- 「北海道生物の多様性の保全などに関する条例」(北海道 平成 28 年)
(特定：特定希少野生動植物 指定：指定希少野生動植物)
- 「環境省レッドリスト 2020」(環境省 令和 2 年)
(EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群)
- 「北海道の希少野生生物(北海道レッドデータブック 2001)」(北海道 平成 13 年)
(Ex：絶滅種 Ew：野生絶滅種 Cr：絶滅危機種 En：絶滅危惧種 Vu：絶滅危急種
R：希少種 Lp：地域個体群 N：留意種) ※改定版が公表済みのものは以下による
「北海道レッドリスト【哺乳類編】改定版(2016 年)」
「北海道レッドリスト【鳥類編】改定版(2017 年)」
「北海道レッドリスト【魚類編】改定版(2018 年)」
「北海道レッドリスト【昆虫>チョウ目編】改定版(2016 年)」
「北海道レッドリスト【昆虫>コウチュウ目編】改定版(2019 年)」
(Ex：絶滅 Ew：野生絶滅種 Cr：絶滅危惧 IA 類 En：絶滅危惧 IB 類 Vu：絶滅危惧 II 類
Nt：準絶滅危惧 N：留意 Dd：情報不足 Lp：絶滅のおそれのある地域個体群)

② 外来種の選定条件

- 「特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律」
(平成 16 年 法律第 78 号)
(特定：特定外来生物 未判定：未判定外来生物)
- 「我が国の生態系などに被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」
(環境省・農林水産省 平成 26 年)
(国外緊急：国外由来の生物で「総合対策外来種の緊急対策外来種」
国外緊急：国外由来の生物で「総合対策外来種の重点対策外来種」
国外・その他総合：国外由来の生物で「その他の総合対策外来種」
国外・産業：国外由来の生物で「産業管理外来種」
国内・その他総合：国内由来の生物で「その他の総合対策外来種」)
- 「北海道ブルーリスト 2010」(北海道 平成 22 年)
(A1：緊急に防除対策が必要な外来種、A2：本道の生態系へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種、A3：本道に定着しており、生態系などへの影響が報告または懸念されている外来種
※その他の区分(B、C、D、E、h、K)は、以下のリンク「表 1 カテゴリー区分(対象生物の選定の考え方)」北海道ブルーリストのとおり
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/5/4/9/7/6/1/8/_/category.pdf
※改定版が公表済みのものは以下による
「北海道ブルーリスト改定版【哺乳類】改定版(2019 年)」
「北海道ブルーリスト改定版【鳥類】改定版(2019 年)」)
- 「北海道生物の多様性の保全などに関する条例」(北海道 平成 28 年)
(指定：指定外来種)
- 「侵略的外来種ワースト 100」(日本生態学会 平成 15 年)
(○：日本の侵略的外来種ワースト 100)

(7) 環境関連

① 自然公園など

国定公園

網走国定公園はサロマ湖、能取湖、リヤウシ湖、網走湖、藻琴湖、濤沸湖、オホーツク海岸およびその周辺において指定されており、そのうち特別保護地区として各種行為に関して北海道知事の許可が必要となる地区は小清水原生花園、斜里草原の2箇所である。

網走国定公園区域のうち濤沸湖に係わる指定として、小清水原生花園海側が特別保護地区、小清水原生花園湖側が第1種特別地域、湖と砂洲が第2種特別地域、オホーツク海（汀線から沖合1,000mまでの区域）が普通地域に指定されている。

表 資-11 網走国定公園（自然公園法）

地域地区名	内 容	規 制
特別保護地区	特に優れた自然景観原始状態を保持している地区	特別地域での規制（下記）に加えて植栽、放牧、落葉落枝の採取、たき火などまでが規制対象とされる。地区内での現状変更行為は原則として認められない。
第1種特別地域	現在の景観を極力保護することが必要な地域	土地の形状変更、工作物の設置、木竹の伐採など自然環境を改変する各種行為について都道府県知事の許可を得なければならない（自然公園法第13条）。
第2種特別地域	農林漁業活動について努めて調整を図ることが必要な地域	
第3種特別地域	通常の農林漁業について風致の維持に影響が少ない地域	
普通地域	上記以外の区域	各地域指定地に接するオホーツク海汀線から沖合1,000mまでの海中区域が該当。

国指定鳥獣保護区

周辺地域ではサロマ湖の沿岸部の森林や網走湖呼人や能取湖などが道指定の鳥獣保護区に指定されているが、国指定鳥獣保護区は濤沸湖のみである。

濤沸湖における国指定鳥獣保護区の区域は、湖南側後背地および湖、砂洲の範囲がそれにあたるが、そのうち湖水面および隣接する河川敷地の区域が特別保護地区に指定されている。

表 資-12 国指定鳥獣保護区（鳥獣の保護および管理並びに狩猟の適正化に関する法律）

名称	目的など	行為の制限	その他
鳥獣保護区	鳥獣の保護繁殖を図ることを目的として、「鳥獣の保護および狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護法）」に基づいて環境大臣が指定する区域。	鳥獣保護区の区域内では狩猟が禁止されている。	多様な鳥獣の生息環境を保全するために、管理および整備を行うが、地権者には鳥獣保護施設が設置されることについての受認義務が生ずる。
特別保護地区	鳥獣保護区内で特別に鳥獣の保護繁殖を図る必要がある場合には、環境大臣が特別保護地区を指定することができる。	木竹の伐採、水面の埋立・干拓、工作物の設置には環境大臣の許可が必要。	その他木竹以外の植物の伐採（農林漁業除く）、火入れ、動力船（漁業除く）の航行、鳥獣の生息に支障となるような観察、犬などの放逐、球技などレクリエーションなどの行為についても許可が必要となる。

② 国際条約

ラムサール条約湿地

濤沸湖は低層湿原および湖沼を中心に大規模なオオハクチョウ・ヒシクイなど渡来地として2005年11月にラムサール条約湿地に登録された。約900haの湖水面がその範囲にあたり、指定されるための国際基準を満足していることによって登録された。ラムサール条約は各締約国にそれぞれの国内法によって条約湿地を保全・管理することを求めており、すでに濤沸湖は国指定鳥獣保護区の特別保護地区に指定され、地区内での土地改変などの行為が制限されているが、現在行われている漁業や適正な活動などに新たな規制が加わることはない。

濤沸湖はラムサール登録湿地検討会において、選定基準6つのうち以下に掲げる5つの基準を満たした湿地として選定されている（第2回ラムサール条約登録湿地検討会資料（基準1～6）（2004））。

基準1 各生物地理区内において代表的な湿地①

	湿 原	河 川	湖 沼
候補地選定基準	○ 重要湿地500の「湿地タイプ」に「湿原」が含まれること。 ○ 一定以上の規模とまとまりを有していること。（第5回自然環境保全基礎調査、湿地調査において、原則として200ha以上（北海道）または100ha（北海道以外）以上であり単一で一定程度のまとまりを有していること。） ○ 選定理由が重要湿地500の選定基準②（希少種などの生育生息）のみでないこと。 ○ 湿原に保護区が重複すること。 ○ 湿原のタイプ（高層湿原、低層湿原、中間湿原）のバランス	○ 重要湿地500の「湿地タイプ」に「河川」が含まれること。 ○ 河川が主な選定対象であること。 ○ 一定以上の規模を有していること（長さ5km以上）。 ○ 選定理由が重要湿地500の選定基準②（希少種などの生育生息）のみでないこと。 ○ 河川に保護区が重複すること。	○ 重要湿地500の「湿地タイプ」に「湖沼」が含まれること。 ○ 一定以上の規模を有していること（原則として500ha以上）。 ○ 人工湖岸率が50%未満（第4回自然環境保全基礎調査、湖沼調査）であること。 ○ 選定理由が重要湿地500の選定基準②（希少種などの生育生息）のみでないこと。 ○ 湖沼に保護区が重複すること。 ○ 地域のバランス
候補地名	6 サロベツ原野（北海道）（高層） 14 濤沸湖（北海道）（低層） 18 野付半島・野付湾・尾岱沼（北海道）（低層） 23 風蓮湖（北海道）（低層） 39 沼の原・沼の平（北海道）（高層） 70 屏風山湿原池沼群（青森県）（中間） 72 八甲田山湿原群（青森県）（高層） 75 八幡平周辺湿原群（岩手県・秋田県）（高層） 127 尾瀬ヶ原・尾瀬沼（福島県・群馬県・新潟県）（高層） 143 湯の湖・戦場ヶ原・小田代ヶ原湿原（栃木県）（高層） 178 苗場山周辺湿原（新潟県・長野県）（高層） 203 立山周辺湿原群（富山県）（高層） 402 九重火山群湿原（大分県）（中間）	493 仲間川（沖縄県） 498 浦内川（沖縄県）	11 サロマ湖（北海道）汽水 12 能取湖（北海道）汽水 14 濤沸湖（北海道）汽水 23 風蓮湖（北海道）汽水 32 阿寒湖（北海道）淡水 58 大沼（北海道）淡水 69 十三湖・岩木川（青森県）汽水 120 裏磐梯湖沼群 桧原湖（福島県）淡水 121 猪苗代湖（福島県）淡水

基準2 絶滅のおそれのある種または生態学的群集の存在にとって重要

重要湿地500		タンチョウ	マナツル	ナベツル	クロツラヘラサギ	ズグロカモメ	ヘラサギ	オオセッカ	カラフトアオアシシギ
	国内希少野生動植物種	○							
	IUCNレッドリスト	VU	VU	VU	EN	VU	VU	VU	CR
	環境省RDB	VU	VU	VU	CR	VU	EN	EN	CR
13	網走湖（北海道）	○							
14	濤沸湖（北海道）	○							
18	野付半島・野付湾・尾岱沼（北海道）	○							
23	風蓮湖（北海道）	○					○		
32	阿寒湖（北海道）	○							
65	仏沼（青森県）							○	
69	十三湖・岩木川（青森県）							○	
131	利根川下流部（茨城県・千葉県）							○	

基準3 生物地理区の生物多様性を維持するのに重要

○ 専門家に対するアンケートにおいて、基準3にあてはまると回答があった湿地
○ 湿地に保護区が重複すること
6 サロベツ原野（北海道） 11 サロマ湖（北海道） 14 濤沸湖（北海道） 23 風蓮湖（北海道） 39 沼の原・沼の平（北海道） 41 雨竜沼湿原（北海道）

基準5 水鳥2万羽を定期的に支える湿地

○ 定量的基準を3年連続又は5年うちの3年を満たしている湿地のデータ

日本の重要 湿地 500	湿地名	環境省ガン・カモ類生息調査における、過去5年間の ガン・カモ類の渡来数				
		1998	1999	2000	2001	2002
88	蕪栗沼（宮城県）	13,898	10,424	23,304	24,846	24,342
159	三番瀬（千葉県）	74,992	43,181	71,543	107,314	101,739
189	瓢湖（新潟県）	34,697	28,289	24,158	8,911	20,793
300	中海（鳥取県・島根県）	19,921	62,723	74,534	49,082	65,324
301	宍道湖（島根県）	25,208	21,375	48,615	26,480	18,107

※すでに国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されているか、計画があるところから検討

○ 渡りの時期に基準を満たしている湿地のデータ（最大値）

日本の重要湿地 500	湿地名	最大渡来数
14	濤沸湖（北海道）	66,935
18	野付湾（北海道）	28,180
23	風蓮湖（北海道）	54,839

※すでに国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されているか、計画があるところから検討

基準6 水鳥の個体数の1%を定期的に支える湿地

日本の 重要湿地 500	湿地	ガン・ カモ	シギ・ チドリ	ツル	種	1%基準	季節	データ							備 考
								最大値	1998	1999	2000	2001	2002	2003	
6	サロベツ原野 (北海道)	○			オオヒシクイ	550	渡り	2,700							
		○			コハクチョウ	860	渡り	1,196							
11	サロマ湖(北海道)	○			オオハクチョウ	600	渡り	800							
12	能取湖(北海道)	○			オオヒシクイ	550	渡り	1,000							
14	濤沸湖(北海道)	○			オオハクチョウ	600	渡り	1,467							
		○			オオヒシクイ	550	渡り	1,200							
		○			ヒドリガモ	7,500	渡り	58,912							
		○			ミコアイサ	1,000	渡り	3,141							
		○			ウミアイサ	1,000	渡り	1,599							
18	野付半島・野付湾・ 尾岱沼(北海道)		○		キアシシギ	400	秋		—	—	1,193	1,924	364	993	
				○	タンチョウ	8	夏・秋		—	28	20	40	36	36	巣数×4
		○			オオハクチョウ	600	渡り	3,155							
		○			コクガン	50	渡り	3,500							
		○			ヒドリガモ	7,500	渡り	11,323							
		○			スズガモ	3,000	渡り	7,842							
		○			ホオシロガモ	750	渡り	2,360							
23	風蓮湖(北海道)		○		キアシシギ	400	秋		—	—	1,621	—	1,766	1,691	
				○	タンチョウ	8	夏・秋		—	64	72	84	72	92	巣数×4
		○			オオハクチョウ	600	渡り	10,331							
		○			ヒシクイ	550	渡り	1,800							
		○			コクガン	50	渡り	2,000							
		○			ヒドリガモ	7,500	渡り	8,673							
		○			オナガガモ	7,500	渡り	11,442							
		○			スズガモ	3,000	渡り	19,076							
		○			ホオシロガモ	750	渡り	1,517							

※濤沸湖において確認されているのはオオヒシクイではなくヒシクイである。